

20231205 COP28 で4年連続「化石賞」受賞

前回は、森林破壊について考えていきました。

現在、アラブ首長国連邦の首都ドバイで、COP28（国連気候変動枠組条約第28回締約国会議）が行われています。この会議の首脳級会合である世界気候同サミットには、岸田首相も出席しスピーチを行いました。この国際会議で、日本はまたもや気候変動対策に消極的な国に送られる「化石賞」を受賞しました。日本の政策や取組が、推進どころか逆行しているという指摘はとても残念でなりません。環境や豊かな生き方にスポットを当てて真剣に取り組んでいる企業や団体、自治体も現れてきていると思うのですが、本気度を感じない表面的なイメージ戦略と受け止められているということでしょうか。ただ、ネットのニュースを見ると、このサミットや気候変動に関する記事はほぼありません。私たちは世界がどうなっているか、どういう方向に進もうとしているのかを知ることも無く日々を送っているのだなと感じます。知らないのだから関心を持てるはずもなく、たまたま知っても人ごとになってしまうのではないかと思います。

日本には、天然資源がほとんど無く、化石燃料、鉱物等はほぼ輸入です。食物についても、飼料、肥料等もほぼ輸入です。気候変動や戦乱で、こうした諸々が供給不足や値上がりをしただけで、あっという間に産業構造が簡単に崩れてしまうのがこの国の現状です。気候変動の影響を実は最も受けやすく、受けたときのダメージが最も悲惨な形で現れるのは日本だと警告されています。

以下、NHK ニュースの記事をそのまま抜粋します。

日本に「化石賞」 “気候変動対策に消極的” 国際 NGO が発表

2023年12月4日 17時36分

気候変動対策を話し合う国連の会議「COP28」で、国際的な環境 NGO は、日本が石炭火力発電所などを延命させ、再生可能エネルギーへの移行を遅らせているとして、気候変動対策に消極的だと判断した国に贈る「化石賞」に選んだと発表しました。

「化石賞」は、世界各国の環境 NGO が作るグループ「気候行動ネットワーク」が、COP の期間中、気候変動対策に消極的だと判断した国を毎日選び、皮肉を込めて贈っています。

3日、COP28 での最初の発表を行い、日本、ニュージーランド、そしてアメリカを化石賞に選んだとしています。

このうち日本については、火力発電所の化石燃料の一部を、二酸化炭素を排出しないアンモニアなどに転換することで排出削減を進めようという日本の取り組みに触れ、「国内だけでなくアジア全体で石炭火力などを延命させ、再生可能エネルギーへの移行を遅らせている」などと批判しています。

化石賞のトロフィーを受け取るパフォーマンスをした日本の環境 NGO のメンバーの長田大輝さんは「気候変動の影響が世界中で出ていて、一刻も早く脱化石燃料をしないといけない中、日本はそれができていない。脱化石燃料に向けて具体的な行動をしないといけない」と話していました。

<政府関係者「脱炭素の取り組み世界に発信していきたい」>

今回の COP28 でも気候変動対策に消極的な国として、国際的な環境 NGO から4回連続で「化石賞」に選ばれたことについて、日本政府関係者は「民間団体の活動に、政府としてコメントすることは差し控える」とした上で、「日本政府が進める温室効果ガスの排出削減対策が講じられていない石炭火力発電所の新規建設は行わないという日本の脱炭素の取り組みを世界に発信していきたい」と話していました。

<松野官房長官「石炭火力の発電比率 引き下げていく方針」>

松野官房長官は午後の記者会見で「石炭火力は、安定供給を大前提にできるかぎり発電比率を引き下げていく方針で、まずは2030年に向けて非効率な石炭火力のフェードアウトを着実に進めるとともに、2050年に向けて水素やアンモニアなどを活用した脱炭素型の火力発電への置き換えを推進する。加えて排出削減対策の講じられていない新規の石炭火力発電所の建設を終了していく」と述べました。